

もっと知りたい 福生の歴史 (5)

福生市のことをより知ってもらえるように、テーマをしぼって取り上げています。

横田基地

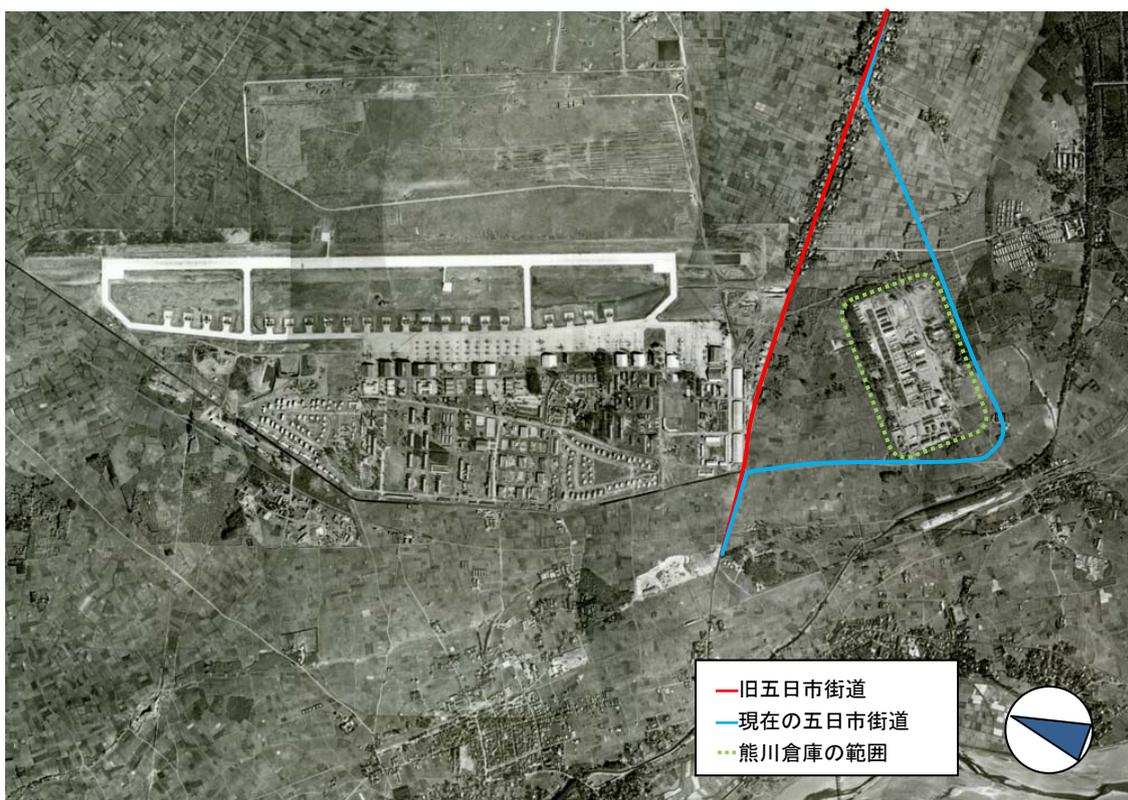
横田基地の生い立ちと変遷

福生には旧日本軍の軍事施設として、陸軍航空立川支廠熊川出張所（熊川倉庫）と陸軍多摩飛行場がありました。熊川倉庫は立川飛行場の拡張用地として昭和11年（1936）に設置され、燃料の貯蔵等がされていました。

多摩飛行場は昭和15年（1940）に完成し、主に陸軍飛行実験部、のちの組織改正で陸軍航空審査部が使用し、試作および新採用の飛行機、航空兵器の性能や実用テスト等を行っていました。

終戦後の昭和20年（1945）9月には米軍が進駐し、翌年には現在の名称である横田飛行場と命名されることとなります。

また、昭和25年（1950）から35年（1960）にかけて数回の工事が行われ、現在の規模に拡張されました。このため横田基地の南側では五日市街道の付替え、北側では国道16号線と八高線の移設などが行われています。



昭和22年の横田飛行場

この航空写真は昭和22年に米軍が撮影したもので、飛行場の南に見える施設は熊川倉庫の跡地です。この後、滑走路の延長に伴い、熊川倉庫跡地は基地内となり、五日市街道や国道16号線、八高線等が移設されます。写真の赤い線が当時の五日市街道、青い線が現在の五日市街道で、基地の拡張にあわせて街道が南側へ迂回しているのがわかります。

もっと知りたい 福生の歴史（5）

福生市のことをより知ってもらえるように、テーマをしぼって取り上げています。

横田基地内の建造物

管制塔や格納倉庫など、戦中の多摩飛行場の施設には、つい最近まで使用されていたものが少なくありません。



旧日本陸軍管制塔（平成9年）
近年まで米軍気象隊が使用していました。



旧日本陸軍兵舎（平成9年）
近年まで米軍兵舎として使用されていました。



旧日本陸軍格納庫（平成19年）
この格納庫は戦後も米軍が使用していましたが、大型の米軍機に対応するため開口上部に切れ込みを入れ、尾翼が当たらないように改修した跡があります。



旧日本陸軍格納庫（戦時中）

横田基地の名前の由来

横田基地という名称から、横田は福生の地名だと思われることが多いのですが、実は武蔵村山市内の地名であり、その命名は戦時中の米軍によってなされています。

米軍には付近の地名をとって基地を呼称するルールがあり、戦時中に多摩飛行場を発見した当時の米軍は、所有していた地図の多摩飛行場の付近に「横田」の地名があったので、横田基地と命名したようです。